

大空に翔る

平成13年3月発行
No.17

発行
(財)山形県体育協会
山形県スポーツ少年団
山形市松山2-11-30
☎(023)625-5750
印刷 (株)大風印刷



大石町第6回スポーツレクリエーションフェスティバル
スポ少のつどいの一場面



元木康年選手
(シドニーオリンピック出場・酒田市十坂スポ少出身)



春の体カテスト風景



西川町バレーボールスポーツ少年団

輝やかしい二〇〇一年を迎え、各団におかれましては、ますます充実した楽しい活動を展開されておられる事とお慶び申し上げます。

関係者のご尽力によりまして「大空に翔る」の第十七号が出来ましたのでおとどけます。日頃の活動に資していただければ幸いです。

ご承知のように、今、スポーツ少年団を取り巻く環境は大きく変化してきております。本部としましても、いろいろと論議を重ねているところですが、方向性が見えても、具体的な方策はなかなか難しいのが現状であります。このような時期にあたり、本県スポーツ少年団の現状と課題を整理し、纏め、「マニュアル」を作成しています。間もなくお手元に届くと思いますが、課題解決の糸口として、広く活用されますようお願い致します。

いよいよ来年から学校週五日制となります。スポーツ少年団の掲げる理念にもとづいた地域活動はますます有意義なものとして、期待されております。人づくり、地域づくりの柱となる活動であることに、自信と、誇りを持って、一層のご指導をお願いし、挨拶とします。



いあいさつ

山形県スポーツ少年団

本部長 原田 薫

第二十七回日独スポーツ少年団 同時交流を終えて

玉虫 由紀子

私が指導しているスポーツ少年団は、全員が小学生ということもあり、シニアリーダースクール修了者という高校生以上の団員との訪独には多少不安もありましたが、五月の東京での全体事前研修、六月の地元でのグループ別事前研修も行い、徐々に団員の皆ともうち解けることができ、安心して出発することができました。

ドイツに着くまで十一時間という長い時間でしたが、機内では皆和気あいあいとリラックス気分です。



一睡もしない間に到着してしまいました。宿泊所までのバスの中で日本人の通訳の方と三十分位話をして行きましたが、ドイツの大学を卒業後、就職先がなく、大学で研究生として勉強しているというのでした。就職難は日本もドイツも同様ですが、日本に帰って職を探すよりドイツにいる方が暮らし易いそうです。理由を聞くと、

一カ月の生活費が一万円位で済むそうで、日本からの仕送りとアルバイト代で暮らせるからだそうです。私も……と少し考えてしまいました。

私達のグループが訪れたのは、水泳中心のドイツスポーツユージュント関係の人達との交流でしたが、指導者の方々は日本のスポ少に興味津々で質問してきました。私の住んでいる米沢市の水泳のスポ少の事を話そうとしましたが、市内の水泳のスポ少は数が少ない事とほとんどの子供達は幼い頃からスイミングスクールという所に、一カ月五千円位で週二、三回通っていると話すと、大変驚いておりま



した。ドイツでは、プールを使用するのに低価格で利用でき、ボランティアの指導者も多く、幼い子から年配の方まで皆で水泳をやっているのです。「私達の地区でももっと安く利用できれば、水泳人口も増えるかと思えます。」と答え

ると、「是非そうして下さい。」と笑いながら要望されました。今回の訪独で残念だったのが、他のグループの日程表と比較してみると、ホームステイが少なく、ほとんどがホテル泊だった事です。ドイツの夏休みは家族旅行が行事となつていたので、同年代の人達との交流もあまりなく、市内観光が多かったため、足を痛めた子もいたようです。それでもスポーツ

好きの団員達は、夕食後もボウリングやビーチバレー等を楽しんでいました。ドイツの夜は、午後九時過ぎまで明るいので、ボールが見えなくなる寸前まで外で遊べました。

ドイツの人達とのレクリエーションの最中に、私の不注意で左足首を骨折してしまい、通訳の人がいない中、団員達が一生懸命慣れない言葉でドイツの人に骨折した事を伝えてくれ、足首を冷やし、救急車が来るまで手当してくれ、とても頼もしい団員達でした。その後、帰国の日のフランクフルト空港まで会えませんでした。私の入院後の行程を無事に終えたこと聞き安心しました。ドイツの病院の皆さんも大変優しく、二週間も入院したらドクターも看護婦さん

も患者さんたちとも仲良くなつてしまい、退院のときには泣いてしまいました。空港に車椅子で着いたら、団員や他のグループの子たちも心配して「大丈夫ですか。」と声をかけてくれました。涙がでるほどうれしく、皆の顔を見ること

ができ、安心しました。本当に団員の皆様には迷惑をかけてしまい、大変申し訳ないと反省しています。私は、この交流会でリーダースクールに入った子供達は色々な面

で素晴らしいと感じ、私の所属する少年団や地区の少年団からもリーダースクールに送りだし、より多くの子供たちが、将来指導者となり、後世にスポーツを推奨していくってほしいと思いました。

団員の皆様にも、この貴重な体験で得てきたものを生かし、リーダー会に留まらず良き指導者となり、スポーツ少年団に貢献してくれることを期待しています。

グループの皆もこのまま終わるのが名残惜しいのか、事後研修もして下さい。」との要望がありました。なので、私からも指導者となつてくれることを望んでいると伝えたいと思います。



特集

楽しいスポーツ指導のあり方について

指導育成委員会委員長

坂田 喜一郎

スポーツ少年団における指導のあり方等について、常日頃感じていることを述べたいと思います。

スポーツ少年団を実際に指導・活動されている各指導者の皆さんにとって今さらということかも知れませんが、全く初歩的なことですが再確認をしていただければと思います。

まず、スポーツ少年団の組織をもう一度確認してください。どんな組織でどういう活動をして、どのように将来の子供たちを育成していくのか考えてみたいものです。一、スポーツ少年団理念を再確認してみようということです。スポーツ少年団として、活動するに当たって大変大事な事柄です。

二、スポーツ少年団の組織についてはどうでしょうか。指導者のみならず、単一スポーツ少年団は指導者、リーダーを中心に、市町村、県、日本本部と登録制

によって組織されています。特に父兄、地域学校関係等、子供たちを取り巻くいろいろな方々が何らかの形で係わっているという事です。

三、スポーツ少年団活動についてはどうでしょうか。スポーツだけの活動ではなく、スポーツ活動を通して文化活動「地域活動」「学習活動」等、「心」の活動も大事なことであります。スポーツ少年団活動はとかく競技スポーツ志向が強く、「みんなのスポーツ」いわゆる多種目的スポーツ活動が少なくなっているといわれています。一つの種目に片寄らず、いろんなスポーツ活動にチャレンジさせることも大事なことです。仲間との連帯感を作る、地域を知ること、それには父兄の方や地域の方、学校関係者と一緒になって活動することが必要ではないでしょうか。勝敗を重視することも大事ですが、将来を見据えた活動を考えたいものです。

四、子供の心、体、年齢等を考えた活動をしたいたいです。同年齢であつてもその人の体力や体格を考えた活動をしたいたいです。またスポーツ少年団は、年齢だけでなく小学校一年から六年まで、また、中学生も一緒に活動することが数多くあります。心の強さ、弱さ等、目で見て体で知ることが大事なのです。子供たちに「夢」と「希望」を持たせるような活動を心がけたいものです。

最上教育事務所社会体育主事

高橋 久 男

二十世紀最後のスポーツの祭典、シドニーオリンピック。日本は金五個、銀八個、銅五個のメダルを獲得しました。(柔道の田村選手、女子マラソンの高橋選手、女子ソフトボール選手等々、女子選手の活躍が光った大会でした。)中でも陸上競技で初の金メダルを獲得した高橋選手の、「すごく楽しい四二・一九五キロでした」という言葉は印象的でした。

最近のスポーツ選手は楽しかった等と言うことが多くなりましたが、スポーツは苦しいのが当たり前だと思つています。後に小出監督が「厳しいトレーニングを乗り越えた者だけに許される言葉「努力もなしに楽しいなどと言えるわけがない」と述懐しているように世界の頂点を極めるには、楽しんで勝てるわけがないのです。さて、現代の子ども達に必要とされているのは、生きる力の礎とも言うべき、生命を尊重する心、他者への思いやりや倫理感、正義感、美しいものや自然に感動する心等、豊かな人間性の育成を目指し、心の教育の充実を図っていくことが極めて重要な課題と言われています。そこでスポーツ少年団活動の果たす役割は一層重要になる訳です。将来、明るい希望をもつた個性豊かな人間として健やかに育っていくための指導のあり方も更に重要だと考えられます。子どもに意欲を持たせる指導の展開と自律の促進、意欲を換気させ、楽しさを感じさせる。また、個々人の存在が認められ、それによって達成感が味わうことができる。そ

れらがスポーツには備わつていません。即ち、意欲を持たせるには「スポーツは楽しい」ということが大前提なのです。相對評価を慎み、否定的な言葉は禁句です。これは子どもの個性を摘む事になります。評価は育成するための評価であつて、子ども達の考えを団活動に取り入れていくべきです。試合で勝つことも大切ですが、そのことが子どもの育成と、個性を育てることが大切であると思ひます。指導者としては多くの知識を習得し、指導に携わつて行くことが必要不可欠になるものと感じています。最後にありますが、事例をひとつご紹介したいと思います。アメリカ力のこともたちのサッカーの試合中、シュートが決まれば優勝できる絶好のチャンスが訪れたとき、キックした子どもが外してしまいました。子どもに、ナイスプレー！ ナイスチームワーク、ナイスストライク、ナイスファイトと励ましの言葉をかけたのです。日本の指導者はこのような言葉を贈ることができるとはどうでしょうか？

友好交流

◆日独同時交流受入

(東南村山支部 7/23~29)

精悍な顔立ちで山形空港に降り立った八人の訪問団。初めての訪問地のためか、疲れた様子は見られませんでした。一ヶ月分の荷物を詰めたスーツケースは、女性では持てないほどの重さでした。

天童市民プラザでの民泊受入家庭との顔合わせ会。Cinoflagとドイツ語であいさつした後は、英語で話を進めていきました。

その後、三市二町でのプログラムが展開されました。

坊平では整備されたクロカソコースで、高原の涼しさにも誘われて思わず走り出すミヒヤエル。途中で見失った仲間を探すのに苦労しました。天童若松寮で轆轤を器用に操り、焼き物作りに挑戦するアレックス。航空便で送った作



県青年の家・グローバルセミナー

品は割れていかなかったでしょうか。若松寺で座禅を組みマールクス。日本人以上に上手だと住職に誉められました。プールのスライダーを

何度も滑り落ちるヨハンナ。男女関係なく遊んでいる姿が印象的でした。自分で打ったそばを器用に嚼るキルヒナー。そばアレルギーの心配など必要ありませんでした。女子柔道部員と組み、果敢に技を掛けるジルケ。柔道着姿はオリンピック選手と見間違えるほどでした。民宿の郷土料理に舌鼓を打つシユテファニー。



柔道体験

箸の使い方も様になってきました。慣れない筆を持ち、漢字に挑戦するサンドラ。筆のプレゼントに大喜びでした。七十名の県内の高校生とディスカッションや交流ゲーム、交流夕食会を行った青年の家でのグローバルセミナー。一泊二日での山形の高校生とも仲良くなりました。ドイツのフォークダンスと花笠おどりを踊ったさよならパーティー。民族衣装がかわいらしく、ホストファミリーと写真を撮りました。一週間の滞在で情が移り、涙がこぼれた歓送会。姿が見えなくなるまで手を振っていました。スポーツ少年団に関わる同年代の青少年とより意義のある事業にしたい、という今後の課題は残りましたが、暑い夏の爽やかな交流でした。

◆日独同時交流派遣



ドイツでのドイツスカッションやホームステイなど

の交流の中で、たくさんの方と学ぶことができました。なんと言葉で言い表して良いのかわかりませんが、様々なことを見たり聞いたりした中で、自分の考え方や、心の面で、少しずつ変わってきたような気がします。

この日独同時交流に参加できたことは、私にとって大きなプラスになりました。これから先、スポーツ少年団の活動及びリーダー大会の中で学んだことを十分に発揮できるように、がんばりたいと思っています。

自分自身も慕われるようになり、リーダーになれるよう、努力していきたいと思っています。



先輩紹介

ジュピロ磐田フィジカルコーチ

菅野 淳

プロフィール

菅野淳 かのあつし

一九六五年、山形市生まれ。山形南高等学校卒業。山形大学教育



学部卒業。筑波大学大学院修士課程。体育研究科コーチ学専攻修了。ヤマハ発動機株式会社入社。

サッカー部コンディショニングコーチ就任。Jリーグ昇格後、ジュピロ磐田フィジカルコーチ。

●スポーツ少年団関係

- 山形南高校在学時より、蔵王一小サッカースポーツ少年団を指導
- 山形大学入学後、日本スポーツ少年団シニアリーダー取得
- 日独スポーツ交流に参加、ドイツへ

●現在の仕事

フィジカルコーチの仕事とは、サッカー選手が試合で活躍するために、基礎的な体力や身体能力を最大限に発達させて、発揮させることです。具体的にはフィジカルトレーニングプログラムのデザイン、フィジカルトレーニングによるコンディショニングづくりはもちろん、ケガのしない身体づくりなど、つねに選手と二人三脚で行う仕事ですが、フィジカルコーチの仕事です。今シーズン、ジュピロ磐田は、七

月下旬にスペインで行われる世界クラブ選手権に出場する予定です。応援よろしくお願ひします。

日中青少年スポーツ団員交流事業

日本スポーツ少年団と中華全国体育総会との青少年交流の事業として、隔年ごとに双方で派遣・受入れが行われています。今年度は中国代表団が、八月十六日から二十二日までの七日間の日程で、三十二名の団員と八名の指導者が来日しました。

鶴岡市においては、ホームステイでの日本の子供達との交流を中心に、学校・スポーツ施設等の見学や、金峰少年自然の家で行われた山形県ジュニアリーダースクールで、スポーツ少年団員との交流などを行いました。

最終日前夜は「さよなら夕食会」を行い、羽黒太鼓・日本舞踊等の



余興を楽しんだ後、全員で輪になってうたを歌い、別れを借しました。来年度は派遣事業が行われる予定です。

県スポーツ少年大会

八月一日(火)〜三日(木)



源流の森にて

ジュニアリーダーズスクール

八月十六日(水)〜十八日(金)



由良海水浴場にて

地域交流促進

東村山地区スポーツ少年団親子交流大会
中山・山辺町スポーツ少年団

事務局 井上利昭

平成十三年一月十四日(日)中山町総合体育館において、「東村山地区スポーツ少年団親子交流大会」を開催しました。本大会は、レクリエーションを通して親と子の和を広げ、基礎体力の増進と健康なからだづくりを目指すとともに、より多くの仲間と交流を図りスポーツ少年団の団結を目的に行われました。

当日はあいにくの雪にもかかわらず、平成一十一年度より村山市では、

市町村の動き
村山市

「都市部スポーツ少年団育成事業」の指定を受け、展開しています。

この事業は三年間の継続事業で、必修テーマである「スポーツ活動における熱中症予防」の研修会その他、組織、母集団活動、活動の活性化等の項目において、市内のスポーツ少年団の実状に応じたプログラムを展開できる内容です。

熱中症予防の研修会では、一年目は村山市内の指導者が対象でしたが、二年目は対象者を北村山全域に広げて開催しました。この研

修会では、体温と発汗量のバランスが崩れ、体温上昇を引き起こす熱中症の危険性、予防方法を具体的な事例をもとに、その発生時期、対処方法を学ぶことができました。

また、活動の活性化に関する事業として、団員と親子の交流を目的に「みんなで遊ぼう!」スポーツ少年フェスタを開催しました。これは日頃ふれあう機会の少ないニュースポーツの普及も兼ねて行いました。種目はシャッフルボード、グラウンドゴルフ、スピードボール等を行ったわけですが、ルール説明や指導を、専門の指導者と市体育指導委員会の方に依頼したので、約百数十名の参加者をう

まくなるとめることが出来、スムーズに運営することが出来ました。最初は初めて会う団員同士での競技は少し遠慮がちでしたが、白熱してくると互いに打ち解け合い、笑い合う姿が印象的でした。

終了後には、スピードボールを冬季の野球練習に活用したいという団の指導者や、交流活動にニュースポーツを活用したいという団体が出てきて、ニュースポーツの普及にも貢献できたことを嬉しく思います。



スポ少親子フェスタの活動の一場面(シャッフルボード)

山市独自の事業として、各団の要望や課題に応じた事業を展開できるように考えていきたいと思



は違う一面で、各団員、指導者、保護者の和が広がる交流ができたと思います。最後に、会場運営にご協力頂いた

団員の夢



北部
ミニバスケット
片桐 有麻

私は、三年生の時に兄も入っていたので、バスケットに入ってみようかなと思いましたが。最初の頃は、ストレッチ運動とサーキット等と教えてもらいました。

六年生になって、キャプテンで「四番」のユニフォームをもらいました。四番のプレッシャーはとて大きく、やめなくなる時もありましたが、みんなのおかげで今まではがんばってこれました。私達のチームは、福島県へ遠征に行ったり、他のチームとの交流会をやったりいろんな事をしていきます。十一月から一月まで、六年生最後の試合冬期リーグがありました。この試合は、他の試合とちがいで、フリースロー合戦というのがあって、いつもよりもフリースローの練習が多くなりました。結果は、リーグ戦が優勝、フリース

ロー合戦は二位でした。

今年も、もう中学生です。中学校に行くと、何の部活動に入るかまだ決めていないけど、小学校でみんなと一緒にバスケットをやってきて、とつても良かったなあと思っています。



山辺卓球
スポーツ少年団
佐藤 亜耶

わたしの家族は、四人全員卓球スポーツには関わっています。お父さん、お母さんは認定指導員、中二のお兄ちゃんもジュニアリーダー、わたしは選手として三年連続全国大会に出場しました。今はいつも家族四人でスポーツ少年団に行っています。練習はきびしくたいへんだけれど、監督と練習をしていてスマッシュがきまり点数をとった時が気持ちいいです。また、試合で仲よくなっただけのスポーツの友達と文通をし

たり、試合などで会って話すのが楽しいです。わたしの夢は、今わたしが監督やコーチからおしえてもらっているように、わたしも将来子ども達に、卓球の楽しさをおしえたいです。そして子ども達の活躍しているすがたを見てみたいです。それからわたしは、全国大会でベスト8をめざしてがんばっていきます。



西川町
バレーボール
スポーツ少年団
日塔 幸樹

僕の家族は、バレーボール一家です。お姉ちゃん、お兄ちゃん、そして、もちろん、お父さんも、今でも、バレーボールをやっています。小学三年生の時から本格的に、スポーツ少年団で、バレーボールを、おしえてもらいましたが、考えてみると、もともと、小さい時から、お姉ちゃん、お兄ちゃん、バレーボールをみたり、ボールをさわったりしていたような気がします。今では、スポーツ少年団のキャプテンとして、チームをまとめるのが残りの少ない、小学校のバレーボール大会に全力をつくし、ひとつでも優勝できるように、

がんばっているところです。これからの僕の目標は、お兄ちゃんと同じように、県大会、東北大会まで行くことです。そして、全国大会まで行き、優勝することです。それには、今から中学校のバレー部で、ガンバれるよう、チーム、仲間みんなと、体力と技術力を身につけていくことだと思います。



尾
おもたか
柔道
スポーツ少年団
加藤 豪

僕は幼稚園の時から翔平君と柔道に入りました。ずっと、練習を upper level の人とやっけて強くなりました。僕は小学三年の時、初めて県大会という市より大きい大会に出ました。結果は三位でしたが、くやしく泣いてしまいました。これがはげみになり、柔道が今まで以上に楽しくなりました。

しかし僕には夢があります。今年にはシドニーオリンピックがありました。日本の選手は大健闘でした。僕もオリンピックの選手になり、全日本チームのメンバーに入り世界柔道を制覇することが僕の一番の夢です。

そして井上康生選手のように一本勝ちのできる選手になりたいです。



堀内
スポーツ少年団
大山 唯

わたしは、去年の十月に、東北大会に出場しました。パドミントをやった三年たつたけれど、これが初めての東北大会への出場でした。出場が決まったときは、自分でもなにかんだか分からないくらいとてもうれしかったです。それも、ダブルスのパートナーのおかげだと思います。

次の試合のときも、わたしは、ダブルスに出て、今までずっと試合で勝てなかった相手に勝つことができました。そのときも、パートナーのひとと、東北大会出場のことと同じように喜びました。

わたしは、パートナーの人といっしょに、試合のときも、練習のときもがんばったから、このよ
うな結果になったんだと思います。

わたしは、中学生になっても、バドミントン部に入り、去年はあまりいい結果ではなかったので、試合でいい結果が残せるように、苦手なところをいっぱい練習する
という、二つの目標にむかってこ
れからもがんばりたいと思います。



米沢フェンシング
スポーツ少年団
池内 祥

僕が所属している米沢フェンシングスポーツ少年団は、べにばな
団体が開催された平成四年に創設
されたスポ少です。

米沢市は、団地でフルーレ競技を、成年男子の部で三年前に優勝、
今年準優勝。また、一年前イン
ターハイで米沢東高の女子団体が
全国制覇しました。世界選手権に
出場する選手も多く、全国的に
フェンシングの強い地域として知
られています。

現在のスポ少の団員は中学生六
人、小学生七人の合計十三人で活
動しています。県外の大会に多く

出場し多くの入賞を誇っています。練習は週に火、金の二回でみんなそれぞれ毎回目標を持って練習
しています。

そして、僕達の年間での大きな目標は七月に行われる全国大会で
す。毎年全国の小中学生がこの大
会を目標に練習しています。

今年、僕はこの大会で三位にな
ることができ、そして十一月にド
イツの国際大会に出場し十三位に
なることができました。

来年は、決勝に残り優勝を狙い、
また、米沢スポ少で多くの表彰台
をうめるようにこれからの練習を
みんながんばっていききたいと思
います。



白鷹西陸上
スポーツ少年団
小谷部 淳

ぼくは、白鷹西陸上スポーツ少年団の団員です。ぼくはこのスポ
少に入り五年生の時全国三位、六
年生の時は全国四位という成績を
残せました。だから中学になっ
ても、白鷹西陸スポーツ少年団に入
り、やはり全国をめざしたいです。
そして、小学時代ではかなわな
かった、全国の頂点にたちたいと

思います。それと、小学時代では
できなかった、一〇〇メートル走
以外、例えば二〇〇メートル走な
どで、東北、全国にいつてみたい
と思います。

この以上二つが今のぼくに一番
近い目標であり一番近い夢です。
この夢が実現できるよう、今以上
に努力を重ねていきたいと思いま
す。



南平田
スポーツ少年団
守屋 好剛

ぼくは三年生の時スポ少野球に
入りました。小さい時から野球が
好きで友達と野球をして遊んだり、
父とよくキャッチボールをしたり
していました。プロ野球では巨人
軍のファンで良くテレビを見て、
ぼくもプロ野球選手になりたいと
思っていました。三年生になりス
ポ少に入り、すぐに外野手として
試合に出してもらいました。しか
し試合でエラーをしたり、夏の練
習がきつくて、何度もやめたいと
思った時もありました。でもコー
チや監督のおかげで、五年生の時
はレギュラーに定着することがで
きました。六年生になって、キャ

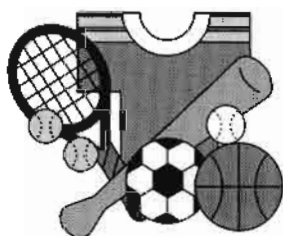
プテンとピッチャーになりました。
チームをまとめていなくてはな
らないと思ひ責任感も出てしま
した。これからも練習を頑張っ
て甲子園に行くのがぼくの夢です。自
分の頑張りを認めて、他の人達も野
球を好きになってくれればいい
な一と思ひます。野球はチームプ
レーなので、みんな力を合せて戦
わないと勝てません。みんなの力
が一つになり良いプレーができた
時が一番うれしかった。これから
も自分の夢に向かって頑張っ
て行き
たいと思ひます。



いづみサッカー
スポーツ少年団
寒河江 核

ぼくは、スポ少に入ったのは四
年生の時です。ぼくが入ったきつ
かけは、ぼくのお父さんがサッ
カーをやっていて、自分もやっ
てみたいなあと思つたからです。
最初は、あっちこっちにボール
がいつて下手でした。でも、自分
で時間をみつめてボールをいじっ
ているうちに出来るようになって
ました。そして、五年生になつたら、
六年生と試合に出ました。そして、
県大会にも行きました。そして、

うまい人を見てぼくもやってみ
たいと思ひ、よりサッカーをが
んばってやるぞと、練習しました。
そして、六年生。でも、六年生
が少くなく五年生は一人もいなく
て四年生がほとんどのチーム。で
も、サッカーはチームプレー。一
人がすごい、いいプレーをしても
試合には負けず。だから一人ひ
とりが他のチームの何倍ものサ
ポートをして、繋ぐサッカーを目
標にしました。でも、今年入った
人もいるのでボールをとめるのが
やっとな人もいました。時々、頭
にくることもあつたけど自分もあ
んなふうだったんだと思ひます。
そして、来年の春から中学生。中
学校では今以上に上達し、そして、
楽しくサッカーをし、やがてはプ
ロになれるようにがんばります。



団紹介

サクランポ Jr.

代表 須貝 憲明

サクランポ Jr.は、平成十二年結成されたきたてチームです。

サッカー少年団にも女子団員が増えてきています。しかし、大会となるとピッチに立てる女子団員はほとんどいません。

山形市スポーツ振興事業団主催の「女性サッカー教室」に、今年から少年団の女子の参加も認めていただき、一年から六年生までの十五名で活動を始めました。毎週木曜十九時から二時間、指導者の資格を持つ女性の監督・コーチと大人の参加者と共に和やかに、時には厳しい練習をしています。男子の中での練習と違いのびのびと時々うるさいくらい笑い声の中でサッカーを楽しんでいます。

十月に秋田県雄和町での「全日本女子ユース(U12)サッカー選手権東北大会」に参加し、女子の大会に新たな楽しさを見つけてくれたようです。今年も四位だったけど来年



は優勝だ！と張り切っています。中学まで一貫した指導のできるチームを目指します。

上山 ジュニアバドミントンクラブ

代表指導員 長沢 雅人

本川は、昭和六十二年二月に上市市全域に団員を募集し十名で団を設立しました。その後、急激な団員増加や加入地域の偏りから、平成五年三月に本団と、宮川中学区から募集した上山南部バドミントンスポーツ少年団に分離しました。そのような経過から、現在も両団は、姉妹団として各種大会や合同練習会でお互い協力し活動を行っております。

現在、本団は小学三年から高校生まで、ほとんど女子団員合計三十七名と指導員三名の構成です。小学生の活動内容は週二回の練習と各種大会の参加ですが、団員数が多いため、試合参加のできる団員が一部に限られるのが課題となっております。中学・高校生団員はジュニアリーダーとして小学生団員の良きお姉さん・練習姿勢の良き見本役をやっており、また自ら競技選手として県大会など各種大会に



も参加するといった充実した活動を行っております。今後の活動も、スポーツ少年団の理念に従い、健全育成をモットーに活動を行っていきたいと思っています。

西川町

バレーボールスポーツ少年団

代表指導者 大泉 敬夫

「子供達にもバレーボールの楽しさを」をモットーに西川町バレーボール協会の会員が、町内の小学生男女を対象に、昭和五十八年に西川町バレーボールスポーツ少年団として発足し、現在では町の卒業生二名を含む七名の指導者と男女五十二名の団員が活動しています。

団としての活動は、毎年四月の入団申し込み始まり、週一回金曜日二時間の練習・五月から二月までの各種大会への参加、団員父兄指導者の絆を強める為の合宿、町のスポレク祭への参加、三月の六年生を送る会まで休む月はありません。その中の週一回の練習では、モットーでもあるバレーボールの楽しさ勝つことの喜び



を教え、何事に於いても必要な礼儀、ありがたの気持を持つことの大切さを教える事に重点を置き、子供達も父兄も指導者ものびのびと良い汗を流しています。

地元の中学校や高校で活躍している選手の中に数多くの団の卒業生がいる事は誇らしい事です。社会人になっても、生涯スポーツとしてのバレーボールを楽しみ愛し続けてほしいと願っています。

東根市

東根INTERESTING卓球スポーツ

コーチ 鈴木 照秋

本団は、平成九年十一月に、東根一中卓球部のスポーツ少年団として発足し、翌年の東根地区の小学生団員を加え、四年目の現在、地区外からの入団者を含め、三十名の団員と五名の指導者で練習に励んでいます。

活動内容は、週三回火・土・日曜日の夜七時〜九時迄二時間の練習と、年三回の合宿、各種大会への参加、芋煮会、新年鏡開き、三年生を送る会等、楽しみの多い活動の他、団主催の大会（大げやき杯）、日曜夜の一般開放等を行っております。各種大会では、年々成績も上がり、中学生の部では、地区中学校総合体育大会に於いて、団体、個人優勝、小学生の部では、全日本卓球選



新庄市

空手道スポーツ少年団

代表指導者 武田 政夫

新庄市空手道スポーツ少年団は、県北の新庄、最上一圏の小、中学校少年、少女が集い構成しております。現在五十余名(団登録は、小学四年生以上)がおり、毎週火、土曜日の二回の練習となっております。練習場は、新庄市の中心に位置している「勤労者福祉センター」で大変恵まれた場所、設備環境が子供たちの父母からも喜ばれています。団の歴史は、結成から十六年が経過し大会エントリは全国、東北、県の各種大会に参加しており、父母の熱烈な応援を受け選手も大いにガンバリ、良い成績を残しております。

団のモットーは、空手道という日本伝統の武道精神を少しでも青少年が理解し日常生活に実践できるような心がけており、「人格の向上、礼節を守り、信義を重んずる鍛練と集中力を養う、友愛を深める」に代表される「訓」を練習終了後に全員が正座で合唱します。

団を卒業した団員が生涯スポーツとして空手道を愛し、指導陣に入って精神を伝承していくことを願い活動しております。



南陽市

沖郷柔道スポーツ少年団

団長 高橋 久寿

私たち沖郷柔道スポーツ少年団は、柔道を通して、健全な心身と豊かな人間性をたかめることを目的に、南陽市柔道連盟の沖郷地区少年団として、昭和五十七年に発足し、その後スポ少登録され、今年で丁度二十年目をむかえます。

現在の団員は、小学二年生から六年生までの、男子二十七名、女子十六名で、発足時から週一回の練習でしたが、約一年前より五、

六年生のみの一回来加えて、週二回の練習をしています。他のスポ少より少ない練習量とされています。

沖郷地区には、他に四つのスポ少があり、連絡協議会を作り、団員の募集、合同結団式、小学校の先生との話し合いや懇親等を行ない、地域に根ざした活動を目指しているのも特徴的です。

練習では、自主性を大切に、団員自ら、練習する様に心掛け、低学年から、高学年まで、体格もさまざまなので、個人個人の良い所を伸ばす様に声かけをしながら、気持ちのつながりを大切に活動しています。また保護者会も、行事に積極的に参加していただけのも団員には励みになっていきます。

柔道の良さを知ってもらい、スポ少を出たあとも続けてもらいたいと願っています。



小国町

バレエボールスポーツ少年団

指導者 中津川 ひとみ

我がスポーツ少年団は、昭和五十四年小国小学校の女子児童を対象に発足したバレエボールのスポーツ少年団です。

団員は三年生から六年生の女子

十五名、指導者四名です。

現在は小国小学校以外からの入団もあり、毎週火・土の各二時間の練習と、大会参加や合宿、親子行事、お別れ会等、バレエボールだけでなく様々なレクリエーションも行い、楽しく活動しています。



立川町

狩川野球スポーツ少年団

代表指導者 赤谷 義勝

狩川地区には七団、サッカー、柔道、剣道、体操、バドミントン、陸上があり、狩川小学校の四年生から六年生までの一四一名が日々活動しています。

野球スポーツ少年団は、狩川地

区の団としては歴史が古く、昭和四十五年に発足以来、三十年を経過しました。

現在二十名の団員と六名の指導者が野球を通しての人間作りと、運動の好きな子供になるようにと日夜頑張っています。



シーズンは週四〜五日、オフには土、日曜日を中心に体作りをしている。

年間の活動は、三月中旬の入退団式に始まり、各種大会への参加、夏の合宿、村山地区スポ少との交流会、母集団としては、卒業会、親子レク、六年生を送る会などです。他に地区行事の体力テストや雪中カルタ大会などにも参加しています。

子供達が目標としている立川中野球部は、全国大会、東北大会に数多く出場しており、励みとなっています。子供達と共に二十六年これからも頑張ろうと思います。

発足し、十八年になりました。最

温海町

ヨットスポーツ少年団

代表指導者 本間 史恵

温海町ヨットスポーツ少年団は鼠ヶ関小学校の四年生から六年生の児童を対象に、昭和五十七年に

初は、学校のプールにヨットを浮かべ、練習をしていました。後に同年供用開始となった鼠ヶ関マリナーに拠点を移し今日に至っております。現在、団員数は、男子六名、女子五名で、週一〜二回、海上練習を中心に、時々、温海中学校ヨット部と一緒に練習を行なっています。鼠ヶ関小学校が全国で唯一授業にヨットを取り入れているのもあるのが近年、各種大会においての好成績が目立つようになり、また、スポ少出身の子供達が東北大会で、優勝や上位入賞、団体選手などと活躍している姿を目の前にし、子供達にも良い刺激になっていきます。しかし、大会で好成績を残すばかりではなく、温海町のシンボルスポーツであるヨットの底辺拡大と共に海辺の町鼠ヶ関の子供達にもっと海に親しんでもらいたい、もっと自然を、海を知ってもらいたいという思いをヨットを通して伝えて行きたいと思えます。今後も、この団に入ってくる子供達が将来、ヨットをやつて来て良かったと言える様に、思える様に頑張つて行きます。





スポーツ少年団育成指導マニュアル

「はばたけ！」

スポーツ少年団

山形県スポーツ少年団

副本部長 安部新一

一、スポーツ少年団をとりまく情勢

とりまく情勢

日本スポーツ少年団は、東京オリンピックの開催二年前にスポーツを通して健全で逞しい身体と心をもった青少年を育成するという趣旨で、財団法人日本体育協会創立五〇周年記念事業の一環として発足しました。以来三十八年を経た今日まで多くの人々の共感を得て青少年の育成組織として一〇〇万人に達する我が国最大規模の組織となりました。

本県のスポーツ少年団も各関係機関団体の指導者の方々のご尽力によってめざましい発展をとげ、団員対象人口比の加入率において常に上位を占める全国でも有数の組織として他に誇る得る存在となりました。この間、団活動を支える多くの方々の青少年に対する愛情と熱意

によって、様々な課題を解決し、

時代を担う健全な身体と心をもつ

た青少年の育成に努めてきました。

しかしながら、活動を継続して

いく中でスポーツ少年団本来の理

念の再確認を必要とする問題や

「少子化の現象」「学校週五日制の

実施」「総合型地域スポーツクラブ

の進展」など、新たな局面を迎え

てスポーツ少年団としてどう対応

するかが問われています。

二、指導マニュアルの必要性

発足以来三十八年を経過した今

でも、スポーツ少年団活動と学校

教育に関わる問題や活動の過熱化、

競技団体との確執、競技会志向や

勝利至上主義といったスポーツ少

年団本来の理念とはかけ離れ、到

底相容れない形で屢々取り上げら

れています。

これらの問題を解決するために、各単位団並びに各関係機関団

体が心を一つにしてとりくまなけ

ればなりません。そのために、各

競技種目団体との合同会議や、小

学校及び中学校体育連盟との懇談

会などを実施して合意と連携を図

る一方、各少年団の指導者を対象

に共通した指導理念を確立するた

め、毎年指導者認定講習会を実施

しています。

本県スポーツ少年団は、昭和五

十八年三月にスポーツ少年団育成

の手引きとして「大空に翔る」を

発刊して指導にあたってきました。

その後十七年を経過した今、ス

ポーツ少年団をとりまく新たな情

勢の変化に対応するために一貫し

た指導が必要になってきました。

そこで今回、活動の拠り所とし

ての指導マニュアル「はばたけ！

スポーツ少年団」を作成すること

になりました。

三、マニュアルの概要

(1) スポーツ少年団の「理念」

スポーツ少年団本来の理念は、

複雑多岐にわたる現代社会に生き

る子どもたちを体育・スポーツの

実践を通して、心身ともに健全で

明るく逞しい少年に育てることに

あり、究極の目的を「人間づくり」

においています。

スポーツ少年団は、その活動の

拠点を地域社会に置いて、団員相

互の切磋琢磨、指導者や育成母集

団など多くの人々との関わりの中

で人格を陶冶し、社会の荒波を乗

り越えて生きる逞しい少年の育成

をめざしています。

(2) 本県スポーツ少年団の現状

スポーツ少年団の活動状況を的

確に把握するために、平成十年度

に本県スポーツ少年団は単位団の

活動実態調査を行いました。そ

の中から、団編成、団員、指導者、活

動目的、活動内容、活動日数及び

時間、年会費、安全対策等の主な

項目について要約しています。

(3) 本県がめざす望ましいスポーツ

少年団

スポーツ少年団活動は、それぞ

れの団におい

て特色と魅力

のある活動を

展開すること

が必要ですが、

独善的な活動

にならないよ

うに注意しま

ければなりま

せん。

ここでは本

県がめざす望ましいスポーツ少年

団の組織づくりと活動内容の具体

的な例示と指導者の役割と基本的

な心得、少年期の特性の正しい理

解と指導のポイント、育成母集団

の役割と活動、安全の確保と指導

等について具体的に例をあげて示

しています。

(4) スポーツ少年団活動のQ & A

学校週五日制完全実施や総合型

地域スポーツクラブの進展など、

スポーツ少年団をとりまく新たな

制度や、団活動を展開する中で派

生する様々なことがらについて見

解を示しています。

このマニュアルが、本県スポー

ツ少年団をとりまく関係者の間で

お互いの共通理解を深め、課題解

決のために広く活用されることを

期待します。



17年ぶりに発刊される「はばたけ！スポーツ少年団」

県の動き

表彰

文部省社会体育優良団体

泉学区スポーツ少年団(酒田市)

日本スポーツ少年団顕彰受賞者(団)

◆表彰市町村スポーツ少年団

長井市

◆表彰指導者

鈴木是行(山形市)・柏屋年夫(河北町)・佐藤保雄(東根市)・前田均(酒田市)

山形県スポーツ少年団表彰受賞者(団)

◆功労者

後藤貞夫(山辺町)・佐藤昭子(山形市)・大場一夫(河北町)・結城正(尾花沢市)・武田信一(新庄市)・竹田義雄(南陽市)・関誠三(白鷹町)・佐藤勝(酒田市)・石塚孝志(鶴岡市)・高橋克弘(余目町)

◆優良団

上山ジュニアバドミントンスポーツ少年団(上市市)・うめばちミニバスケットクラブスポーツ少年団(山形市)・西川町バレーボールスポーツ少年団(西川町)・大石田JSCスポーツ少年団(大石田町)・日新柔道スポーツ少年団(新庄市)・林山スキースポーツ少年団(金山町)・漆山バスケットボールスポーツ少年団(南陽市)・長井エ

平成12年度 山形県スポーツ少年団登録状況

平成13年1月15日現在

Table with columns for 単位団体 (団), 更新, 新規, 計, 男, 女, 計, 男, 女, 計, 計. It lists various sports clubs across different municipalities and their membership statistics.

ルザ野球スポーツ少年団(長井市)・松山町第二剣道スポーツ少年団(松山町)・樺引剣道スポーツ少年団(樺引町)

各級スポーツ少年団資格取得者

◆認定育成員(少年スポーツ指導員)

本年度は四名の受講希望者がありました。認定育成員は現在約六十名いますが、一市町村に最低一名が配置されるようにならなければなりません。まだ認定育成員のない市町村もありますので、来年度は是非受講してください。

◆認定員

十二年度は三六九名が受講修了、

内一八七名認定、一八二名が十二年度未登録のため保留。(★認定員資格は十三年度未登録の場合、資格が消失しますのでご注意ください。)

《シニアリーダースクール》

前期 八月十一日～十四日 秋田県 後期 三月二十五日～二十七日

静岡県・団員 池田清海(川西町)・猪狩千洋(同)・高橋篤史(同)・梅津優一(白鷹町)・梅津隆(同)・佐竹彰(同) 《ジュニアリーダースクール》 八月十六日～十八日 金峰少年自然の家 《全国スポーツ少年大会》 七月二十七日～三十一日 福島県

指導者・井上道雄(長井市)・団員・芳賀透(白鷹町)・高橋敦(同)・長谷川大裕(同)・原田大(同)・嶋林聡美(同)・菊地薫(同)・山田真由美(同)・荒井優花(同)・飯野洋平(鶴岡市)・渋谷智之(同)・五十嵐亜希子(同)・高橋祐樹(川西町)・坂野翼(同)・猪狩朋花(同)・江口慶(同)・小方麻衣(同)・荒井俊輔(同)

《東北ブロックスポーツ少年大会》

七月二十八日～三十一日 青森県

指導者・相倉政男(新庄市)・団員・柴崎侘(尾花沢市)・加藤幸子(同)・渡辺真美(同)・後藤理紗(川西町)・滝澤奈穂子(同)・佐藤綾香(同)・金子

恵美(同)・池田静加(同)・橋本侘(白鷹町)・金子孝太郎(同)・新納和也(同)・大宮啓(同)・嶋林ゆり(同)・高橋充賀(鶴岡市)・笹原聖士(同) 《全国スポーツ少年団SHIPS交流大会》 八月六日～八日 佐賀県

《山形県スポーツ少年大会》

八月一日～三日 飯豊少年自然の家

指導者 全国研究大会 《東京都 山形県より二十一名の指導者が参加。

平成13年度 山形県スポーツ少年団事業計画

		事業名	期 日	会 場
種目別交流大会関係	県内	県少年少女スポーツ交流大会	10月7日(日)	県総合運動公園他
	県外	第7回全国スポーツ少年団SHIPS交流大会 全国スポーツ少年団競技別交流大会 ・サッカー(第25回) ・ホッケー(第23回) ・軟式野球(第23回) ・卓球(第24回) ・剣道(第24回)	8月7日(火)～8月9日(木) 7月30日(月)～8月4日(土) 8月3日(金)～8月5日(日) 8月3日(金)～8月6日(月) 3月28日(木)～3月30日(土) 3月28日(木)～3月30日(土)	福井県・奥越高原青少年自然の家 東京都・読売サッカー場 栃木県・今市青少年スポーツセンター 石川県・石川県立野球場他 滋賀県・滋賀県立体育館 岐阜県・大垣市武道館
		東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会 ・軟式野球 ・サッカー ・柔道 ・ミニバスケットボール	7月29日(日) 11月24日(土)～11月25日(日) 2月9日(土)～2月10日(日)	宮城県・宮城球場 福島県 山形県・山形県体育館 岩手県・水沢市総合体育館
研修関係	県内	認定員養成講習会(8コース開催)・庄内(田川)会場 ・西置賜会場 ・最上会場 ・庄内(飽海)会場 ・西村山会場 ・北村山会場 ・東南村山会場 ・東南置賜会場 体力テスト判定員講習会 ジュニアリーダースクール 市町村スポ少・スポ安研修会 県指導者研修会 育成母集団研修会 リーダー会研修会	8月25日(土)～8月26日(日) 9月8日(土)～9月9日(日) 11月10日(土)～11月11日(日) 11月10日(土)～11月11日(日) 11月17日(土)～11月18日(日) 11月17日(土)～11月18日(日) 12月1日(土)～12月2日(日) 12月1日(土)～12月2日(日) 12月2日(日) 8月16日(木)～8月18日(土) 3月1日(金) 3月2日(土)	金峰少年自然の家 小国町民体育館 最上合同庁舎・新庄市体育館 酒田市武道館 大江町体育センター 尾花沢市文化体育施設 山形市江南公民館 南陽市民体育館 山形市江南公民館 北村山支部「神室少年自然の家」 山形県スポーツ会館 西村山支部 最上支部//東南置賜支部
	県外	シニアリーダースクール(前期) (後期) 認定育成員研修会(北海道・東北地区会場) (関東会場) 認定育成員養成講習会(前期) (後期) 全国リーダー研究大会 指導者全国研究大会	8月11日(土)～8月14日(火) 3月下旬 10月19日(金)～10月20日(土) 11月17日(土)～11月18日(日) 10月20日(土)～10月22日(月) 12月14日(金)～12月16日(日) 11月23日(金)～11月25日(日) 6月10日(日)	田沢湖スポーツセンター(秋田) 未定 田沢湖スポーツセンター(秋田) 国立オリンピック記念青少年センター(東京) 田沢湖スポーツセンター(秋田) 田沢湖スポーツセンター(秋田) 国立オリンピック記念青少年センター(東京) 東京プリンスホテル(東京)
	交流関係	第37回山形県スポーツ少年大会 地域交流促進事業 第31回東北ブロックスポーツ少年大会 第39回全国スポーツ少年大会 第5回北海道・東北ブロックリーダー交流会 第27回日独スポーツ少年団同時交流(派遣) (受入) 日独青少年指導者セミナー(受入) 日独スポーツ少年団指導者交流(派遣) 日中青少年スポーツ交流指導者交流(派遣) 団員交流(派遣)	8月7日(火)～8月9日(木) 8月2日(木)～8月5日(日) 7月28日(土)～8月1日(水) 7月30日(月)～8月1日(水) 7月19日(木)～8月11日(土) 7月30日(月)～8月5日(日) 5月20日(日)～6月8日(金) 9月22日(土)～10月8日(月) 10月20日(土)～10月29日(月) 8月4日(土)～8月10日(金)	庄内支部「海浜青年の家」 東南置賜支部//西置賜支部 宮城県「泉ヶ岳青年の家」 徳島県「鳴門総合運動公園」他 岩手県「種市町中央公民館」 ドイツ各地 西置賜支部 東京都・大分県・佐賀県・鹿児島県 ドイツ各地 中国各地 中国：南京市・蘇州市
会議関係	県内	県スポーツ少年団協議会 県スポーツ少年団本部員会 県スポーツ少年団専門委員会(企画・普及・活動・指導育成) 県スポーツ少年団指導者協議会理事会 (・県スポーツ少年団指導者協議会専門部総会/幹事会) 県スポーツ少年団表彰・日本スポーツ少年団表彰伝達式 県スポーツ少年団リーダー会総会/運営委員会	5月11日(金)/2月下旬 5月11日(金)/5月22日(火)/2月下旬 5月8日(火)/11月2日(金) (3月2日(土)/6月) 3月1日(金) 3月下旬	山形県スポーツ会館 山形県スポーツ会館 山形県スポーツ会館 山形県スポーツ会館 (西村山/) 山形県スポーツ会館
	県外	東北6県体育関係者会議 全国指導者協議会 日本スポーツ少年団委員総会 全国都道府県事務担当者会議 東北ブロック指導者研究協議会 北海道・東北ブロック会議	5月14日(月)～5月15日(火) 6月8日(金) 6月13日(水)/3月13日(水) 6月13日(水)～6月14日(木) 11月1日(木)～11月2日(金) 2月7日(木)～2月8日(金)	青森県「アップルバレス青森」 岸記念体育会館(東京) 岸記念体育会館(東京) 岸記念体育会館(東京) 青森県「アップルバレス青森」 青森県「アップルバレス青森」

スポーツ安全保険(傷害保険・賠償責任保険・共済見舞金)

スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動等に最適な保険です。

※5人以上のグループで御加入ください。

加入区分	掛金	傷害保険(保険金額)				賠償責任保険(補償限度額)		共済見舞金
		死亡	後遺障害	入院	通院	身体賠償	財物賠償	
A 子供のスポーツ活動等成人の文化活動、ボランティア活動、地域活動	450円	2,000万円	最高3,000万円	1日につき4,000円	1日につき1,500円	1人1億円	1事故5億円(免責1,000円)	突然死 140万円
B 老人のスポーツ活動	800円	500万円	750万円	1,800円	1,000円	500万円(免責1,000円)		
C 成人のスポーツ活動	1,400円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円	500万円(免責1,000円)		
D 山岳登山等	9,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円			

◆対象となる事故 ○グループ活動中の事故 ○往復途中の事故 ◆保険期間 平成13年4月1日から翌年3月31日まで(申込受付は3月から)

—加入用紙、資料請求、お問い合わせ—

〒990-2412 山形市松山2丁目11番30号 ☎023(642)8321

財団法人 **スポーツ安全協会山形県支部** (山形県体育協会内)